



川上未映子がいまだ気になる。彼女の新刊「ヘヴン」を手にとって戻し、戻してはまた手に取って。財布の中身の、持っている限りの金と相談していたことがある。

割とミーハーな俺なので、この人が話題になった頃に本をまとめて大人買いをしようかと悩んだりもして、けっきょく図書館でこの人の全ての本を一気に予約して数ヶ月も待たされてバラバラで読んだ。読み始めちゃあ、図書館から「ご予約の資料が用意できました」「ご予約の資料が用意出来ました」と連絡のメールが次から次に来て、ちょっとした短期集中合宿のようにせわしなく読んでいたので、何だか楽しみきれなかった。

だから読みたいと思った時、時間のある時に、少しずつ、じっくり読んでこうと思って、今でも気が向いた時に少しずつ買い揃えている。

俺が本というものを気に入って大事にしてるのはせいぜい数日。どれだけ気に入って、どんなに大事にしてたって、読み終わればいつかは邪魔になって売っぱらってしまう。だから本を買うのは悩む。本ってかさばるのは分かりきってるし、でも買ってしまいう時がある。大抵そうは読み返さないし。六畳間と俺と単行本の関係は微妙過ぎるバランスで、あの手触りも読み心地も気付けばどこか疎ましくなるというのが分かっているのに、売っぱらってはまた買い直したくなるという、大人買いや無駄遣いがしたいっていう理由で、もう目を通したはずなのにまた手を伸ばしてみたくもなる。そんな誘惑に負けてしまうことがままある。